野川台自治会
あいさつ運動の輪

発　行：野川台自治会
発行者：櫻井且久　野川台自治会長
川崎市宮前区野川3135-1
TEL. 044-789-5614
協　力：西野川小・野川中PTA、野川小、南野川小、野川町内会、西団地自治会、野川南台自治会、おやじの会、すずの会、一葉会、青少年指導員、地区民児協、地区社協、野川こ文ほか
編　集：福祉の風土づくりを進める会事務局
代表 鈴木邦男　044-766-2004

家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして

あいさつ運動を始めてから13年目、子どもたちの思いに応えて「あいさつの輪」、
さりげない「お節介の輪」の拡がりを通じて、信頼と支え合う“絆”づくりを皆さんの手で！

「40周年のバトン」

西野川小学校　教頭　山田　朗生

【ワクワクワク。校門を入っていくと、そこは緑が大盛り、神秘のグリーンパラダイス。「おはよう」「おはよう」「おはよう」ここは心のバトンがどんどんつながって、カラフルな笑顔が咲くパレット】

これは、昨年12月７日の40周年記念式典の中で6年生が披露したステートメントの一節です。この40年間、子どもたち、保護者、地域の方、教職員、たくさんの方のたくさんの挨拶がバトンとなって受け継がれ、西野川小学校に笑顔を咲かせてきているのだなあと感じることができました。「挨拶は心を開くこと」と言われています。つまり、自分から挨拶をすることは「私はあなたに心を開いていますよ。」ということになります。そう考えるときっと苦手と感じる人も多いでしょう。でもそれでもいいと思います。このバトンは「つなげる」ものではなく、「つながる」ものだからです。すでに心のバトンは次の10年に向かって着実につながり、広がっています。

西野川小学校の朝のあいさつ運動

よりよい野川をめざして！

野川中学校　教諭　今井　研汰

野川中学校の生活委員会は、毎朝８時から10分間、あいさつ運動を行っています。今年は「あいさつと身だしなみでよりよい野川をつくろう」を目標に掲げ、一人でも多くの仲間に元気な挨拶を届けようと取り組んでいます。

活動を始めたころは、恥ずかしがって声が小さくなっている人がいましたが、タスキをかけ、週番を重ねていくうちに大きな挨拶と明るい笑顔で仲間をむかえることができるようになりました。毎週水曜日は、地域の方々と共に活動しています。地域の方々と一緒に大きな声で挨拶することで、登校してくる生徒は、顔を上げて生活委員と挨拶を交わしながら正門を通る姿が増えてきました。一日の良いスタートを切るきっかけにもなっています。委員長は「みんなが挨拶を交わして一日を始めることで、明るくて楽しい学校にしていきたい」と希望をもって活動しています。そして、この運動が今や、下校時のあいさつ運動である「さよならプロジェクト」にもつながってきております。

これからも、中学校だけでなくよりよい野川をつくろうと、地域と共に力を合わせていきたいと思います。

登校時のあいさつ

下校時のあいさつ（さよならプロジェクト）

「自分事」として地域を考える

宮前区役所地域みまもり支援センター　所長　藤沖　京子

「自分事」という言葉をこの頃よく聞きます。「他人事」の反対語だそうです。

「あいさつ運動」は、まさに自分の暮らす地域のことを「自分事」として取り組んでいる活動です。自分がどんな地域に暮らし続けていきたいか、「自分事」として考え行動する、その第一歩が「あいさつ」です。簡単そうですが、実行は難しいです。まして10年以上継続することは至難の業です。

野川地域の子どもたちは、この素晴らしい活動を通じて、自分が住む地域の当事者になっていくのだと思います。これは「自分事」としての地域を考える姿勢の種まきであり、「地域のつながり」や「互助」を形成する担い手づくりそのものでもあります。今後「地域包括ケアシステム」をより一層推進していく大きな力になるでしょう。頼もしく思いますと同時に、貴重な活動の継続を心より願っております。

支え合う地域コミュニティづくりを

―― あいさつは、気づき、見守りのはじめ ――

公園と街路の清掃を通じた絆づくり！

晩秋の11月～12月にかけて野川台自治会、西野川小学校、野川中学校がそれぞれ地域の清掃に連携して取り組み、絆づくりにもつながったことが伺えました。

■ 野川台、６つの公園の美化清掃！

12月15日㈰ 野川台の各公園協議会と自治会との定例の公園美化清掃が、６つの公園で一斉に実施。当日、快晴に恵まれ94名の方が参加され、240袋の落ち葉等を収集しました。この数年、参加者が減少気味で、次回の皆様の協力が期待されています。

■ 西野川小、ペア学年で落ち葉集め！

雨で順延の日もありましたが、西野川小学校の全児童が、それぞれ下級生と上級生がペア（ペア学年）になって、12月の12日、16日、23日の３日に、第三公園と第四公園の落ち葉集めを実施しました。笑顔いっぱいで楽しい野外授業になったことが伺えました。自治会からも役員が参加し小野瀬校長先生からもお礼のお言葉を頂きました。

■ 野川中、権六坂の地域清掃！

11月30日㈯、140余名もの野川中学校の生徒が、野川中学校区地域教育会議共催の地域清掃に参加。森島校長先生のお話の後、野川台―消防署―野川小学校に至る権六坂の落ち葉清掃を実施し、例年になく落ち葉が多く、大型のゴミ袋をトラックで運ぶほどでした。野川台自治会からも櫻井会長以下８名が参加し、中学生と言葉を交わしながら一緒に汗水流して落ち葉集めをし、交流を深めた１日でした。（事務局）

宮前警察署指導の合同防犯パトロール実施

10月下旬、野川台自治会は、宮前警察署と区役所の指導の下に、自治会員、西野川小学校の先生・PTA、こども文化センター等約36名の参加を得て、恒例の合同防犯パトロールを、２班に分かれて実施し、地域での示威運動の大切さを学び合いました。

親子で楽しむ「おはなしの会」！

11月上旬、地区社協が毎年開催しています「おはなしの会」が、野川小学校で開催。演目のひとつに民話の会「team 励風」から、二人で語る独特のスタイルでの“笠地蔵”等のお話があり、子どもたちは、話しの迫力と面白さにくぎ付けになり、舞台終了後、語り手に駆け寄っている姿は感動的でした。

我が家のお正月では！

野川小学校　校長　伊藤　肇

我が家のお正月は、元旦から親戚の家々にあいさつに回るのが常でした。朝早くから、一番遠いところを筆頭に次々に回っていくのです。当然多くの親戚に会うので、お年玉がたくさん手に入りますが、父はいつもあいさつがきちんとできなければ、お年玉はもらえないと私に口が酸っぱくなるほど言っていました。もちろん親戚とはいえ、お金をいただくことになるので、失礼があってはならないという教えです。私もお年玉が欲しいので、失礼のないようにしっかりとあいさつができるように心がけていました。１年に１度しか会わない親戚だけれども、毎年あいさつを交わし、「もういくつになったんだね？」という毎年の台詞にも慣れっこになりながら、いつしか今度は自分がお年玉を渡すような年齢になってしまいました。そのときは、やはり渡す相手がきちんとあいさつができるかどうか見極めながら・・・。ここでもあいさつの大切さは受け継がれているのでした。

野川小学校の朝のあいさつ運動

“あったかカフェ”（福祉施設「富士見プラザ」にて）

みんなでつなごう　あいさつのバトン

―― ひとことでみんなの顔に花が咲く ――

野川を笑顔あふれる地域に！

―野川地域の三つの小学校の児童の声―

野川小学校

✻　私は大きな声であいさつをすると、一日を清々しい気分でスタートすることができると思います。委員会では、みんなが清々しい気分で学校生活を送ることができるように、あいさつ運動やスローガン作りをしてきました。少しずつ野川小学校にあいさつの輪が広がっていくといいなと思います。

（５年　福田　愛結菜）

西野川小学校

✻「おはよう」この言葉は、私の毎日の笑顔の源です。きっとみんなにとっても笑顔の源になっていると思います。私は運営委員会で毎週金曜日の朝に、あいさつ運動をしています。あいさつを返してくれる人もいれば、そうでない人もいます。あいさつをする人が増えれば、笑顔がたくさんの町になると思います。

（６年　野村　怜菜）

南野川小学校

✻　私は、あいさつ運動をして、あいさつの大切さや気持ちの良さを実感しました。あいさつを返してくれたらとても嬉しいし、あいさつ運動を通じて友達と仲良くなれた事もあります。このあいさつ運動を、委員会以外の人、１年生や２年生、そして来年、再来年と続けてほしいと思います。

（５年　浅沼　葵）

あいさつ運動の新しい「標語」のデビュー！

―三つの小学校の児童の作品―

野川地域の三つの小学校の児童会等が、それぞれ中心となって取り組んできました“あいさつ運動の標語”（スローガン）をシール化して、児童全員に配布（2,000枚）することができました。子どもたちの明るく健やかな成長、安全で見守り、支え合う地域社会づくりにつながることを願っております。

○笑顔で明るく気持ちの良いあいさつをしよう！（野 川 小 学 校）
○みんなで　つなごう　あいさつのバトン　（西野川小学校）
○あいさつで　みんなニコニコ　南野川　（南野川小学校）

校 門 で ！

南野川小学校　校長　野村　智

「こうちょうせんせい、よいおとしを」冬休み前日、校門で子どもたちを見送るときに１年生の子どもたちがかけてくれた言葉です。

冬休み明けの７日、登校してきた時には、「こうちょうせんせい、あけましておめでとうございます。ことしもよろしくおねがいします。」こちらも１年生の子どもたちの言葉でした。お正月の挨拶の時には、私の前できちんと立ち止まってお辞儀までする様子に、うれしいやら驚くやらで、反応に困った年の始まりとなりました。

１年生の子どもたちが身につけている力は当然のことですが、そこに至るまでの家庭や地域での体験、そして６年生をはじめとする上級生からのよい影響と学校での指導によることだと考えています。

地域をあげ、これまで着実に取り組んできたあいさつ運動の成果の素晴らしさを実感するとともに、これから先、学校での指導についての責任を感じた校門での出来事でした。

南野川小学校の朝のあいさつ運動

秋晴れのもと三校の６年生の運動会！

―野川小・西野川小・南野川小―

10月24日、野川小学校で、野川中学校区内の小学校３校の６年生全員（約250名）による恒例の「地区別運動会」が開催され、10人縄跳び、玉入れ、輪の渡し、リレー、長縄跳び等の種目が行われました。運動会の性格は、単に得点で他校と競争し合うというより、むしろ三校の6年生が一堂に会し、自分たちの日頃の練習記録の更新に向けお互いにチームワークの良さを競う会う大会のように伺えました。最後に南野川小の野村校長先生から、「３校の子どもたちがお互いにたたえ合いながら頑張ってくれたことの評価と、６年生にしかできない貴重な体験をこれからの学校生活に生かしてください」との話がありました。　（事務局）

学校と地域のつながり

学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

（文責は編集事務局）

仲間と笑い、未来へチャレンジ！

西野川小学校創立40周年記念を迎えて

12月７日、西野川小学校の創立40周年記念式典と祝賀会が開かれました。

式典は、この10年の校長先生経験者、歴代のPTA会長、地域の方等のご臨席を頂き開催されました。

小野瀬学校長の“感謝と未来に向けてのごあいさつ”の後、１年生から６年生までの各学年の児童によるお祝いの気持ちを込めた発表がありました。それは時を忘れさせるほど素晴らしい発表で、記念式典の神津実行委員長が「おわりの言葉」の中で、“40周年記念にふさわしい発表で感激した”と子どもたちをたたえました。式典を通して、皆さんのそれぞれの思いと、さらなる気持ちをもって新たな一歩を踏みだした一日となったことが伺えました。（事務局）

式典のフィナーレ（合唱）

飾られた全児童の絵

寿楽園で“温かみ”を感じた職場体験！

野川中学の２年生の女生徒３名は11月下旬、地域の社会福祉施設「寿楽園」での職場体験。初日は園の方から施設を案内していただきながら併せてお年寄りとの接し方を学び、その後実際にお部屋の掃除。２日目は、昼食の配膳のお手伝いの合間に「黒ひげ危機一発」のゲームに参加。最初どうやってお年寄りの方と話してよいかわからなく、戸惑いを感じていたそうです。でも話し始めるとすごく温かみと親しみを感じたとのこと、特に90歳の男性から、予期もしていなかった太平洋戦争の体験を聞き、感激し嬉しかったことを目を輝かしてお話をする姿には２日間の職場体験が有意義なものになったことが伺えました。

最後に施設の方から、今日の経験を大事にし、自分の歩む道の一助になったら嬉しいですねとのお話がありました。

（寿楽園；吉田、矢代）

“黒ひげ危機一髪”のゲームに夢中

“若さ溢れる”ハンドボール部！

ハンドボールは「走る、投げる、跳ぶ」の３要素がそろったスポーツで、迫力ある攻防や華麗なシュートが魅力と言われています。中でも空中でボールを受け、そのままシュートするスカイシュートは、最高にカッコイイと言われています。

野川中のハンドボール部は、１年生15名、２年生７名です。部活のモットーはまず学校生活を大切にすること、そして当たり前のことですが、あいさつの励行や用具の丁寧な扱いを日課として、練習に励んでいます。グランドが使える日は、ランニング、フーメーション練習、パス回し、シュート等の試合形式の練習、使えないときは、３人一組での基礎練習に集中して取り組み、仲間意識の強さが伺われました。昨年９月の市大会では、４強にもう一歩というところで涙を飲んだのですが、今年１月５日の県大会での金沢中学との初戦では、多くの選手が出場し25：17で快勝し、２回戦に駒を進めました。（顧問：白井、東郷の各先生）

ダイナミックなスカイシュート！

“声を出し合う”女子バスケットボール部！

米プロバスケットボールで、八村塁選手の活躍が報道されていますが、バスケットボールは、他の球技に比べ、攻守の入れ替わりが早く、時には一寸したことで試合の流れが変わるなど臨場感あふれるスポーツと言われています。野川中の女子バスケットボール部は、１年生17名、２年生７名で、中には駅伝のメンバーもいるものの、初心者が多いので、今はチームワークづくりに力を注いでいて、練習ではパス回し、ドリブル、シュートはもとより、特に、みんなで大きな声を出し合って走ることに専念しているとのことです。

11月に行われた新人戦では、ベスト８まで勝ち進み、その勢いで１月の県大会にはチーム一体となって臨むということです。（顧問は福元、高橋の各先生）

白熱した試合！

編集後記　区役所みまもり支援センターの藤沖所長は、「あいさつ運動は、まさに自分の暮らす地域のことを“自分事”として取り組んでいる活動です」そして「“地域のつながり”や“互助”を形成するの担い手づくりそのもの」と語られております。あいさつ運動を始めて13年、更なる励みの言葉として受け止めたいと思います。有難うございます。（佐藤、原田、前之園、辻本）